TEL897−9502

ﾏｲﾄﾞｱﾘｶﾞﾄｳｺﾞｻﾞｲﾏｽ!!!
ﾏﾀﾉｵｺｼｦ ｵﾏﾁｼﾃｵﾘﾏｽ!!!

61年09月 4日 NO0000017

領収証

日鶏園

TEL344−3812

ﾏｲﾄﾞｱﾘｶﾞﾄｳｺﾞｻﾞｲﾏｽ!!!
ﾏﾀﾉｵｺｼｦ ｵﾏﾁｼﾃｵﾘﾏｽ!!!

61 00

領収証

日鶏園

TEL344−3812

ﾏｲﾄﾞｱﾘｶﾞﾄｳｺﾞｻﾞｲﾏｽ!!!
ﾏﾀﾉｵｺｼｦ ｵﾏﾁｼﾃｵﾘﾏｽ!!!

61年08月24日 NO0000000

人数 4名

4 X 単 300	
ｻｹ(2ｺﾞｳ)	¥1,200
ﾋﾞｰﾙ(ﾀﾞｲ)	¥350
ﾋﾞｰﾙ(ﾀﾞｲ)	¥350
4 X 単 200	
ﾁｭｰﾊｲ	¥800
4 X 単 250	
ｳﾒｻﾜｰ	¥1,000
ﾂｸﾈ	¥250
ﾂｸﾈ	¥250
ﾗﾋﾞｵﾘ	¥250
ﾓﾂﾆｺﾐ	¥250
ﾓﾂﾆｺﾐ	¥250
ﾜｶﾄﾞﾘｶﾗｱｹﾞ	¥450
ｵｼﾝｺ	¥200
ﾎﾟﾃﾄ	¥250
ｻﾝﾏｼｵﾔｷ	¥350

現金売計 ¥6,200

34 3429 1 23点 0:01TM

領収証
日鶏園
TEL344-3812
ﾏｲﾄﾞｱﾘｶﾞﾄｳｺﾞｻﾞｲﾏｽ!!!
ﾏﾀﾉｵｺｼｦ ｵﾏﾁｼﾃｵﾘﾏｽ!!!
0年07月07日 NO000000
人数 2名
ﾋﾞｰﾙ(ﾀﾞｲ) ¥330
ﾓﾂﾆｺﾐ ¥250
ﾐﾙｶﾞｲｻﾗｼﾐ ¥300
小 計 ¥880
現金売計 ¥880
0032 1 3点 4:10TM

領収証
日鶏園
TEL344-3812
ﾏｲﾄﾞｱﾘｶﾞﾄｳｺﾞｻﾞｲﾏｽ!!!
ﾏﾀﾉｵｺｼｦ ｵﾏﾁｼﾃｵﾘﾏｽ!!!
0年07月08日 NO000000
人数 1名
ﾋﾞｰﾙ(ﾀﾞｲ) ¥330
ｴﾀﾞﾏﾒ ¥250
小 計 ¥580
現金売計 ¥580
0117 1 2点 4:02TM

領収証
日鶏園
TEL344-3812
ﾏｲﾄﾞｱﾘｶﾞﾄｳｺﾞｻﾞｲﾏｽ!!!
ﾏﾀﾉｵｺｼｦ ｵﾏﾁｼﾃｵﾘﾏｽ!!!
61年07月14日 NO000000
人数 1名
ﾋﾞｰﾙ(ﾀﾞｲ) ¥330
ｵｼﾝｺ ¥200
現金売計 ¥530
0348 1 2点 19:53TM

領収証
日鶏園
TEL344-3812
ﾏｲﾄﾞｱﾘｶﾞﾄｳｺﾞｻﾞｲﾏｽ!!!
ﾏﾀﾉｵｺｼｦ ｵﾏﾁｼﾃｵﾘﾏｽ!!!
61年07月16日 NO000000
人数 1名
ﾋﾞｰﾙ(ﾀﾞｲ) ¥330
ｴｲﾋﾚ ¥250
現金売計 ¥580
0501 1 2点 20:36TM

領収証
日鶏園
TEL344-3812
ﾏｲﾄﾞｱﾘｶﾞﾄｳｺﾞｻﾞｲﾏｽ!!!
ﾏﾀﾉｵｺｼｦ ｵﾏﾁｼﾃｵﾘﾏｽ!!!
61年07月21日 NO000000
人数 1名
ﾋﾞｰﾙ(ﾀﾞｲ) ¥330
ｵﾆｵﾝｽﾗｲｽ ¥250
現金売計 ¥580
0897 1 2点 19:51TM

領収証
日鶏園
TEL344-3812
ﾏｲﾄﾞｱﾘｶﾞﾄｳｺﾞｻﾞｲﾏｽ!!!
ﾏﾀﾉｵｺｼｦ ｵﾏﾁｼﾃｵﾘﾏｽ!!!
61年07月24日 NO000000
人数 1名
ﾋﾞｰﾙ(ﾀﾞｲ) ¥330
ﾐﾙｶﾞｲｻﾗｼﾐ ¥300
現金売計 ¥630
1120 1 2点 19:59TM

領収証
日鶏園
TEL344-3812
ﾏｲﾄﾞｱﾘｶﾞﾄｳｺﾞｻﾞｲﾏｽ!!!
ﾏﾀﾉｵｺｼｦ ｵﾏﾁｼﾃｵﾘﾏｽ!!!
61年07月27日 NO000000
人数 1名
ﾋﾞｰﾙ(ﾀﾞｲ) ¥330
ｵｽｽﾒNO2 ¥250
現金売計 ¥580
1346 1 2点 19:48TM

領収証
日鶏園
TEL344-3812
ﾏｲﾄﾞｱﾘｶﾞﾄｳｺﾞｻﾞｲﾏｽ!!!
ﾏﾀﾉｵｺｼｦ ｵﾏﾁｼﾃｵﾘﾏｽ!!!
61年07月28日 NO000000
人数 1名
ﾋﾞｰﾙ(ﾀﾞｲ) ¥330
ｴﾀﾞﾏﾒ ¥250
現金売計 ¥580
1421 1 2点 19:50TM

領収証
日鶏園
TEL344-3812
ﾏｲﾄﾞｱﾘｶﾞﾄｳｺﾞｻﾞｲﾏｽ!!!
ﾏﾀﾉｵｺｼｦ ｵﾏﾁｼﾃｵﾘﾏｽ!!!
61年07月30日 NO000000
人数 1名
ｵﾆｵﾝｽﾗｲｽ ¥250
現金売計 ¥250
1586 1 1点 19:47TM

領収証
日鶏園
TEL344-3812
ﾏｲﾄﾞｱﾘｶﾞﾄｳｺﾞｻﾞｲﾏｽ!!!
ﾏﾀﾉｵｺｼｦ ｵﾏﾁｼﾃｵﾘﾏｽ!!!
61年08月04日 NO000000
人数 1名
ﾋﾞｰﾙ(ﾀﾞｲ) ¥330
ｴｲﾋﾚ ¥250
現金売計 ¥580
1945 1 2点 19:51TM

領収証
日鶏園
TEL344-3812
ﾏｲﾄﾞｱﾘｶﾞﾄｳｺﾞｻﾞｲﾏｽ!!!
ﾏﾀﾉｵｺｼｦ ｵﾏﾁｼﾃｵﾘﾏｽ!!!
61年08月06日 NO000000
人数 1名
ﾋﾞｰﾙ(ﾀﾞｲ) ¥330
ﾎﾟﾃﾄ ¥250
現金売計 ¥580
2068 1 2点 19:54TM

領収証
日鶏園
TEL344-3812
ﾏｲﾄﾞｱﾘｶﾞﾄｳｺﾞｻﾞｲﾏｽ!!!
ﾏﾀﾉｵｺｼｦ ｵﾏﾁｼﾃｵﾘﾏｽ!!!
61年08月08日 NO000000
人数 1名
ﾋﾞｰﾙ(ﾀﾞｲ) ¥330
ﾐﾙｶﾞｲｻﾗｼﾐ ¥300
現金売計 ¥630
2224 1 2点 19:47TM

領収証
日鶏園
TEL344-3812
ﾏｲﾄﾞｱﾘｶﾞﾄｳｺﾞｻﾞｲﾏｽ!!!
ﾏﾀﾉｵｺｼｦ ｵﾏﾁｼﾃｵﾘﾏｽ!!!
61年08月10日 NO000000
人数 1名
ﾋﾞｰﾙ(ﾀﾞｲ) ¥330
ｴﾀﾞﾏﾒ ¥250
現金売計 ¥580
2375 1 2点 19:50TM

領収証
日鶏園
TEL344-3812
ﾏｲﾄﾞｱﾘｶﾞﾄｳｺﾞｻﾞｲﾏｽ!!!
ﾏﾀﾉｵｺｼｦ ｵﾏﾁｼﾃｵﾘﾏｽ!!!
61年08月15日 NO000000
人数 1名
ﾋﾞｰﾙ(ﾀﾞｲ) ¥350
ﾋﾔﾔﾔｻｺ ¥250
現金売計 ¥600
2771 1 2点 19:45TM

領収証
日鶏園
TEL344-3812
ﾏｲﾄﾞｱﾘｶﾞﾄｳｺﾞｻﾞｲﾏｽ!!!
ﾏﾀﾉｵｺｼｦ ｵﾏﾁｼﾃｵﾘﾏｽ!!!
61年08月16日 NO000000
人数 1名
ﾋﾞｰﾙ(ﾀﾞｲ) ¥350
ｴﾀﾞﾏﾒ ¥250
現金売計 ¥600
2879 1 2点 19:48TM

領収証
日鶏園
TEL344-3812
ﾏｲﾄﾞｱﾘｶﾞﾄｳｺﾞｻﾞｲﾏｽ!!!
ﾏﾀﾉｵｺｼｦ ｵﾏﾁｼﾃｵﾘﾏｽ!!!
61年08月22日 NO000000
人数 1名
ﾋﾞｰﾙ(ﾀﾞｲ) ¥350
ｽﾀﾞｺ ¥350
現金売計 ¥700
3314 1 2点 19:51TM

領収証
日鶏園
TEL344-3812
ﾏｲﾄﾞｱﾘｶﾞﾄｳｺﾞｻﾞｲﾏｽ!!!
ﾏﾀﾉｵｺｼｦ ｵﾏﾁｼﾃｵﾘﾏｽ!!!
61年08月24日 NO000000
人数 2名
ﾋﾞｰﾙ(ﾀﾞｲ) ¥350
ﾋﾞｰﾙ(ﾀﾞｲ) ¥350
6 X 瓶 200
ﾁｭｰﾊｲ ¥1,200
ﾓﾂﾔﾔ ¥300
ﾓﾂﾔﾔ ¥300
ﾓﾂﾔﾔ ¥300
ｵﾆｵﾝｽﾗｲｽ ¥250
ｲｶﾔﾔ ¥350
ｵｼﾝｺ ¥200
ﾂﾏﾐﾅ ¥250
ﾎﾟﾃﾄ ¥250
現金売計 ¥3,800
3520 1 15点 22:36TM

領収証
日鶏園
TEL344-3812
ﾏｲﾄﾞｱﾘｶﾞﾄｳｺﾞｻﾞｲﾏｽ!!!
ﾏﾀﾉｵｺｼｦ ｵﾏﾁｼﾃｵﾘﾏｽ!!!
61年08月11日 NO000000
人数 3名
ｻﾝﾏ(ｺﾞｳ) ¥300
ｻﾝﾏ(ｺﾞｳ) ¥300
ﾋﾞｰﾙ(ﾀﾞｲ) ¥330
ﾋﾞｰﾙ(ﾀﾞｲ) ¥330
ﾋﾞｰﾙ(ﾀﾞｲ) ¥330
ﾁｭｰﾊｲ ¥200
ﾁｭｰﾊｲ ¥200
ﾊｲﾎﾞｰﾙ ¥250
ﾊｲﾎﾞｰﾙ ¥250
ｵｯﾋﾟｰ ¥250
ﾓﾂﾆｺﾐ ¥250
ｱﾌﾗｲﾀﾞ ¥300
ｼｼｬﾓﾐ ¥250
ﾎﾟﾃﾄ ¥250
ｴﾀﾞﾏﾒ ¥250
ｵｼﾝｺ ¥200
ｲｶﾔﾔ ¥350
現金売計 ¥4,590
2469 1 17点 20:48TM

コンセプチュアルアート
ビール一本の人生

メモ：7/7 まりちゃんと。この日はじめてしじが入る。(しかし、7/5のまちがいではないかと思う)
(蛇足) 7/14 偶然後ろの席にいたエルトラックスのメンバーにちらこを
われわれびっくりする。
7/24 店のテレビで中継していたボクシングを、ちらこと見て
帰ろうとしたらうらんじの終わりでKOをーこ。
7/25 この日はしシートをしじをやったおじさんに捨てられた。
いつものマスターがいなかったせいもある。
7/30 しシートにビールを打つのを省略される。
ここでしシートの存在は、ほとんど無意味に等しい。
しシートをもらっているのは俺ぐらいではないのか？
8/1 店の前まで行ったら看板に「ビール 350円」と
あったのにショックを受け、迷いながらも入らずじまい。
8/4 台風の影響で大雨の日。ビールはしかし330円だった。
なしてかなあ？
8/8 ビールは330円。常連サービスでもないように思われる。
しかししシートを要することをおぼえられた。この日のしじは最近働いてる女の子。
8/11 この日まてとつがはくずれた。しかしメンツ
はよんだそ。(ダツえきと来川氏)
8/15 11日はしかし、3人(と打っている)にビール3本だから、
1人あたまビール1本ということで言い訳はきかなくもない。
しかしこの日、ビールがついに350円になってしまった。
8/16 キャンプらっそしシートさえもらうの忘れた。この日人恋しくなり
ラリーと黒田さんを呼び出す。そのあと3人でラジオホールへと
行き泊めてもらう。ここでしシートを忘れる。(ライトブラック、ドビュッシー、
ここで何月さんと会った。
ラニーショーパック)次の日(丙)村氏のところへ行く。それから深夜
のシードホールに行く(ところ)。このあたりからいつか(ムさんざ)が久々に出る。
8/23 G・K・S氏たちと。2軒目だったので私は最初からチューハイ。
8/24 F氏と。隣の席にKGMがいる。
F氏とM氏でつがいに入れるものが美く。

先月号のP.E.には、8月2日公民館運動大阪場所のことがすばやく載っていたが、僕は1ヶ月おくれで感想を書いておきます。(僕のテンポは何でも他人より数倍おくれています。日常的にはせっかちの所もあるけど、表現など意識的なことではゆったりさを目指しています。今さら改めようとは思いません。ゆったりしたスピードが僕の美意識だから。)

◦宇佐美啓一

オルガンソロは幻想的なイメージも若干あるが、特に惹かれることはなかった。即興的なパートはだれていた。ヴォイスは魅惑だった。

◦倉地久美夫

間の開いた音の少ないギターが単調でたどたどしいけれども、それなりのリズムもあって割合面白かった。ヴォーカルは粘っこいイメージがまあまあ。

◦栄山伸二

オーソドックスなフォーク調の曲に、牧歌的でノスタルジックな印象があり、好感を持ったが、かきならすギターの音がいささかうるさすぎて、のりが一本調子で、かたかった。

◦カナコ・ナカッカ

ハプニングの面白さ。ノイズはまあまあ。フィルムはカリグラフなど初歩的なもので幼稚だった。

◦本多一彦

フリージャズっぽさ、現代音楽っぽさにそれなりのスタイルはあるが、とくに惹かれるところはなかった。まあまあ。

◦向井千恵

ブレスの後へ引き延ばされながら微妙に変化し続ける音に、いつものことながら、ねばっこい叙情性を感じる。ヴィブラートがかかって揺れる音が好き。エフェクターで増幅されたはじける音も、透明なイメージでよかった。かん高い音の方へスムーズにのって行っていた。

◦中華紘耀＋向井千恵(地歌)

古典芸能として確立されたスタイルなのだろうか。プログラムの中での異色さがよかった。日本的でゆったりして、じたっとした(地をはい回るような)民俗性におちこんでいった。向井さんの地歌も息つぎが巧くてゆったりしていた。

◦山下信子＋イトイカズシ

イトイ氏のギターは良さそうなのだが、山下氏のヴォイスとヴァイオリンにかき消されてしまう。ヴァイオリンがキコキコとうるさい。ミュージックコンクレートのようでもあり、現代音楽のようでもあるのだが、結局どれでもない。頭が痛くなった。全く音楽性を感じない。音を出すこと自体が間違っているのではないだろうか?。弾き方の雑さを差し引いたとしても、せかせかした支離滅裂なヒステリックなニュアンスに嫌悪が湧く。叫んだりうめいたりするヴォイスは、音楽表現に昇華されておらず、個人的感情をぶちまけているだけのようで、おぞましい。

◦Luna

ふわふわして軽いけど楽しかった。

◦栄見彦

朗読が短かすぎてまるで物足りない。フィルムは、言いたいことがしぼりきれていないと思った。

◦大島操子

おどろおどろしいメイクとアンダーグラウンドなイメージのテープ。詩の朗読はいささか長くて参ったが、それなりの調子が持続していたようにも思う。パフォーマンスとしてはもう一工夫あってほしかった。

◦宇都宮泰＋藤本由紀夫

技術的に実験的な試みをやっているのが面白い。それに、暗闇で点滅するいくつもの電灯が美しくて、見せ場があった。プログラム中最も目立っていた。しかし、テープをこするとか、磁石を近づけるとか、螢光灯の感触とかの、クールで無機的な手ざわりに異和感がある。それと、(アフターディナーのコンサートでも感じたことだが)部屋全体を飾られた美しいパフォーマンス空間にしてしまう仕掛けは奇抜でいいが、そのような閉鎖空間を作り上げること自体に虚しさを感じる。華美な閉鎖空間の密度を濃くして、その中で高まったところで、その時その場だけの陶酔に終わるのではないだろうか?。また、音や画面や人間の体なら凝視することのできる固着点があるが、行き着く所が空間全体なので、どこかに一つに集中することができず、空間内部での拡散を感じてしまった。しかし、面白かった。

○福本健修＋乙部聖子

セリフを口で言うのはあまり好きでないが、芝居自体は面白かった。フィルム、セリフ、動作、音、臭い、など幾種類もの要素が同時進行する多様性に目がくらむ。どれか1つもじっくり見たいとも思うが、同時進行の面白さはパフォーマンス的面白さに達していた。

乙部氏のフィルムはぐちゃぐちゃしていて、気持ち悪い。アニメーションの変化の過程がダイナミックで、180°反対の物体に2〜3秒のうちに変化してしまっていたりする。水中撮影でも水面上と水面下が次々入れ変わり、画面に翻弄されてしまう。たまに魚の群れなど美しいものが写っても、叙情的に迫ることはしない。このフィルムを見ていると混沌へ追し出されてしまう。混沌の海へ放り出されて陸へ戻れない感じ。これを西嶋憲生は「崩壊感」と言ったのだろうか？（月刊イメージフォーラム 86.5月号）。混沌のままフィルムは終わる。僕だったらもっと整理したり、構成したりするだろう。混沌のまま放り出されて、観終わった方は不安になる。乙部氏のフィルムを見ても不安さが増すばかりで、ちっとも気持ちよくない。すかっとしない。水中撮影しているのに全くイメージが湿っていない。乾いた不安さが身中に残ってしまう。僕は叙情性に酔えるかどうかを判断の基準にすることが多いが、乙部氏のフィルムは叙情的ではない。乾いている。被写体は生臭いが、認識とイメージは乾いている。また、展開が速く、ダイナミズムに振り回されるから、酔っている暇などない。結構忙しい。しかし、忙しいからといって駄目だとは全然思わない。僕の方の怠惰でのんびりした甘ったるい陶酔の期待を破壊するパワーがあった。ただそのパワーが、不安感が残りすっきりしないという僕好みのものではなかっただけなのだろう。色彩の使い方でも、メリハリのついた、ダイナミックな、コントラストの強い使い方だと思った。芝居でも、赤い扇が色彩的なアクセントになっていた。しかし、何故こんな気持ちの悪い被写体ばかり選ぶのか？。おそろしい内面性の人なのではないかと思ってしまう。右手の皮膚剥がれるって青粘土をつけていく場面では本当に吐気がした。体と直接結びつきそうだったから。他のはオブジェとして対象化できて、自分の肉体に危害が及ぶ感じはなかったが……。

僕は肉体を傷つけたいとは思わないし、物体をえぐりたいとも思わない。被写体をそのままの形で眺めていたいタイプだ。僕のフィルムと乙部氏のフィルムは相容れないだろうと思った。乙部氏のフィルムは、色彩などでアクセントのはっきりしている点、展開の速い点、かつ物趣味などセンセーショナルな点で人目を引きやすく、得をしていると思った。また、物事をえぐる体質が古風だとも思った。

○自分（大谷淳）

いつも個人映画の上映会では、終わってもうさんくさい男達がブスッとしているだけで陰微だが、公民館運動では拍手されたのでうれしかった。（どの出演者も拍手されているのだが……）。拍手されることがこんなにうれしいなんて知らなかった。

○全体に公民館運動に参加して

公運に参加して、ますますわけがわからなくなった。映画・映像の状況の中で位置づけられないからというだけではない。内容は高度なものも、面白いものもあったと思うし、長年の修練や試行錯誤なくしては有り得ない表現もあったと思う。それなのに、全体を見れば、やっているときの状況はいかにも趣味的で小さく、消えない。こんなものだったのだろうか？。映像、音楽、朗読、パフォーマンスなど多種の表現メディアの混在することが、実験的な表現行為という突っ張ったニュアンスに向かわず、趣味的な文化祭的ニュアンスに向かってしまったように思う。客の少なさと、出演者でも他の人の表現を見ている人が少なかったということをも含めて、欲求不満と物足りなさが残った。

〒662、兵庫県西宮市甲陽園西山町5-30、(0798) 71-5310、大谷淳

Address: 8-6, Haneda Kuko 2-chome, Ota-ku, Tokyo, Japan Phone: (03) 747-0311 Cable: TOKYUTEL HANEDA Telex: [illegible]

死骸の浜で観光客は笑う。

沖縄、八重山に行ってきました。印象にのこったものは亀甲墓（後述）、サンゴ礁（共同：サンゴ虫の骨格）、星砂の浜（有孔虫の化石）、そしてこれらに共通するのは何故か死骸のイメージなのです。与那国の民俗資料館の人に「明朝、洗骨の儀式がある」ときき、それを土地の人間じゃないものが見てもよいかどうかきくとその人は「母にきいてみます」という。しばらくして奥から返ってくると「別にじゃまをしなければいいのではないかとのことですが、一応その時ことわった方がいいでしょう」とのこと。「いつ行なわれるのですか？場所は？あなたはごらんになったことありますか？」「朝、陽が昇るまえですから6時ごろまでしょう。（さすがに経度がずれるので朝がおそく、夜になるのもおそい。単に標準時でやっているせいからだけど）場所はさっき見てきたといっていた墓場のテントのあるところです。私は見たことがありません。あれはお年寄りがやるものですし、最近は火葬場をつくろうという話もでています。お年の方は火葬はきらいますけどもネ。」…… という訳で、早寝して5時ごろ目をさまし、少し緊張の中で準備していた。すると、宿のとなりの民家に声がして、おばあさんが1人出てきた。私達もすぐ外に出て歩いていたおばあさんを呼び止め尋ねる。「フチ・ギライ（洗骨）に行かれるのですか」「あんたたちはだれ？」「観光客ですが、今朝、それがあるときいて、もし見学してよろしければ場所をおうかがいしたいのですが…」「今いそいでいるから…」といいのこしておばあさんは線香や花の入った段ボールをかかえたまま足早に立ちさる。明らかに拒まれた訳だから追うのもまずいと思い、とりあえず、彼女の行った反対方向から墓場へ回ってみることにする。残念ながらそのテントの場所がわからず、人影ひとつ人魂ひとつみないで（英語でいえばまさしく see no souls である）宿へ帰りまた寝てしまった。もし自分が彼女の立場だったとしてもやはりお断りするであろうと思いながらも、満足できない好奇心をなだめつつ島をはなれる。那覇でTVをみていたらたまたま「中世の死生観」という番組をやっていた。その中で、キリスト教の影響力や支配力が社会に浸透する以前のヨーロッパでは、「生ける死者」、つまり死体と生きている人間の中間的な存在を考えていたため、戦場から生命がけで死体を運んできたり、死者（体）がなくては（その死体に原告者としての役割が与えられているので）殺人罪の有無を問う法廷が開けない。（そのため、死体を乾燥させておいたり、墓場で法廷を開いたり、後には、右手だけあればいいことにしたとか）などというエピソードがあったという。生と死の世界が連続的であり、「中陰」の思想に近いものがあった訳だ。死が最後のイニシエーションといっていいのか。

OTELS:
O TOKYU HOTEL · SENDAI TOKYU HOTEL · CAPITOL TOKYU HOTEL · GINZA TOKYU HOTEL · AKASAKA TOKYU HOTEL · HANEDA TOKYU HOTEL · YOKOHAMA TOKYU HOT
A TOKYU HOTEL · HAKUBA TOKYU HOTEL · KANAZAWA TOKYU HOTEL · KYOTO TOKYU HOTEL · OSAKA TOKYU HOTEL · OKAYAMA TOKYU HOTEL · HAKATA TOKYU HO
TOKYU HOTEL ANNEX · NAGASAKI TOKYU HOTEL · KAGOSHIMA TOKYU HOTEL · NAHA TOKYU HOTEL

Address: 8-6, Haneda Kuko 2-chome, Ota-ku, Tokyo, Japan Phone:(03)747-0311 Cable:TOKYUTEL HANEDA Telex:246-6560

沖縄、八重山においても儀礼を採配するのはシャーマン達であり、彼女等の指示によって死体は3年～7年後に墓から出して洗骨をする。火葬になって現世的なマテリアリティを消去するのではなく、あくまで「中陰的」なボディにこだわりつづける儀式。(その昔はカニバリズムがあったという。つまり、死者を親類縁者で食べることが普通で、今だに言葉のうえでは、死人が出ると「また肉が食える」とか葬式に行くことを「骨をかじりに行く」などという表現をのこしているらしい。) この中陰的ボディは真の死後の世界への再生を待つ移行的状態であり、副葬品や、死者の家の象徴としての墓もそれなりに準備しなければならなかった。死者としての誕生を待つ場所としての墓(亀甲墓)はそれ中之子宮の形に似ている。(また、前方後円墳にも似ているのだが、はたしてどちらが先になるのかわからない少なくとも八重山では、断崖の穴などへ置く風葬から、簡単な石積みの墓を経て、亀甲墓の形へ移行したらしいが、洗骨の風習が朝鮮半島にもあり、最近、半島においても前方後円墳が見つかったということから考えて何らかの影響をうけていると見てよいだろう。また、他の細い葬儀上の風習が、古代皇族の風習を簡略化したものと似ているという説もあり、古代皇族と半島系の関係が、この八重山を追求することによってさらに面白くなる可能性もある。ただ、私のきいた限りでは半島系の文化と八重山を関係してみる人はいないようだった。(連想ばかりで申し訳ないけれど亀甲墓→亀→龍宮伝説→ニライカナイなどというのも一興ではないか?) とにかく、要約して考えてみると八重山の異質さの源は、仏教的論理、倫理の影響がたいへん少ない。(全くない訳ではないが…) という事に起因するのではないか? 飛躍して考えると近代宗教としての仏教(つまりシャーマニズムなどを超越したという意味での救済思想としての宗教)が果した役割は、死者の世界と生者の世界をいかに分断し、あるいは分節化するかということであり、その中間的な存在期間「中陰」をいかに言語化し、属領化(あ!ついに言ってしまった流行語!)していくかということだった。この世とあの世の言語を、分断してしまうことにより、救済されるべきものとしての生者を組織化する。これは、キリスト教、イスラム教にも通ずるのではなかろうか? 私はそれを語る資格は無いのだろうが、この暴力的な直観は脅迫観念となって当分の間楽しませてくれそうだ。

AIN HOTELS:
PPORO TOKYU HOTEL·SENDAI TOKYU HOTEL·CAPITOL TOKYU HOTEL·GINZA TOKYU HOTEL·AKASAKA TOKYU HOTEL·HANEDA TOKYU HOTEL·YOKOHAMA TOKYU
MODA TOKYU HOTEL·HAKUBA TOKYU HOTEL·KANAZAWA TOKYU HOTEL·KYOTO TOKYU HOTEL·OSAKA TOKYU HOTEL·OKAYAMA TOKYU HOTEL·HAKATA TOKYU
KATA TOKYU HOTEL ANNEX·NAGASAKI TOKYU HOTEL·KAGOSHIMA TOKYU HOTEL·NAHA TOKYU HOTEL

即興演奏について…

「ラカンの死」を書いたアメリカ人ジョナサン・スコットン氏は「何故人は分析家になるか」という問に対して、最終的な自らの答として「それ以外にある自分を考えられない」という答にならない答を用意し、「あまりにも禅的でうけいれられないかもしれない」といったことまで書きそえているが、私にとって「なぜ即興演奏をするのか」という問題に対する答もこういうところにおちついてしまいそうだ。結局、私は言語の外でいつまでもいつまでも語りつづけていたい、という欲望にとらわれているのだと思う。しかも大量にこのうえないスピードで微細に変化しながら語りつづけていたいのだ。即興演奏は様々な観点から批判され、それらは全てまっとうであり、納得できる。しかしそれらはあくまで即興演奏そのものではなく、即興演奏のあり方、関係性についての批判であるような気がする。超越的であろうとしたり、自らの可能性を過信したりというのではなく、いや、そうした事も含めて、何らかの行為による現象性をひきだすことによる対象化、(自己の?)が問題だと思うのだ。そして、今、何故こんなことを書くのかといえば、一番確信がゆらいでいるからだ。自分が即興演奏を行いつづけているということに対して。(それは即興の自明性への疑念の段階をとおりしているのだけれど。) // 先日、古いレコード・楽器店で、新品の古いスチールギターを買った。あんまり古びているので絃とピックと演奏に使う金属の棒(なんというのかな?)もくれた。5千円なり。家へ帰り、エフェクターやブリバレーションをして音を出してみる。普通のギターと違フィンガーボード(もうネックではない、ボディと一体なので)が高くはってあり、金属棒でボトルネックのようにスライドさせて音程をかえる訳だ。ボードと絃が離れている代りにマイクと絃はものすごく近くて、あまり振動させるとすぐマイクにさわってビリビリいってしまう。しかしそういった特徴をうまく利用して、いろいろはきのでひくと実に多様な音色が出るので驚いてしまう。近日中にこれでライヴをして、PSEにでも発表します。

領収書コピー完了後文章とあわせて見ていると8/23の領収書がない。実は8/24分が2枚あり1枚はKGM氏たちのものがまぎれこんでいたと思ってしまった。同席していた僕としてはよく考えればわかることだった。コンセプチュアルアートくずしてごめん。で、表紙に使わせてもらいました。日付が間違ってるけどこれが8/23ですね。(F)

「裸体の森へ」伊藤俊治を読んでいたらJ・ウォーターズはラスメイヤーとルーエルシュ・ゴードン・スミス(見たことない)のファンだというようなことを書いていた。それで先月「わたしは女」は間違いで「ワイルドパーティ」のことだったことがわかる。ただそれだけのこと。

ポストにレコードを半分にも断したものが入っていた。ビナコテカ氏からでびっくりした。なんのレコードかわからない。聞く方法があるのだろうか?

イニシエーション

子供が、踊っている。

僕は泥酔して、露路裏の生ゴミの中に座っていた。どこから来て、どのようにしてここに居るのか、覚えが無かった。

たぶん朝なので、明るいのに物音ひとつしなかった、目の前で踊る、子供の素足がアスファルトに当たるぺたぺたという音の他には。

それはインドのものか。華やかな装飾に身をつつみ、緩急の鮮やかな踊り(急激な旋回に石の類いがぶつかり合って音を撒き散らしたかと思うと、視線を落とした腕が御辞儀をするように、スローモーションのようにゆっくりと降りてくる)。

見た感じは、十歳そこそこで、肌を出し、艶かしい姿ながら、その子が男の子であるのを、なぜか僕は知っている。いや、その子供を僕は知っていた。彼は放蕩する王子であり、殺戮する女王であり、僕の母親であり、…たぶん、僕の息子なのだった。

彼は僕の腿を切り裂き、僕の中に入って来た。

1986・6

©皇国AF2本舗

©かせっとれえべる死体安置所

享楽生活 3

真善美というコトバがあるが、近代にとって美は少なくとも善とはイコールではないだろう。それは「高度な印象主義」とデュシャンの評したサンボリズムの詩人たちのコトバが、あるいは僕の好きなジョン・アンダーソンの初期の作品のコトバが、コミュニケーションをその主要な目的としていないことからも、推察することができる。

キリスト教にとって神は性善なる物であるが、他の多くの宗教、特に日本の神道にとってはそうではないのではないか。僕の考えでは、神は美しく、或いは真なるものであっても、その性善であるとは思われない。

最終回は見逃したものの、再放送された「ヤヌスの鏡」を面白く見た。山岸涼子のコトバを使えば(「猫瞳の爪」あすか10月号)「無意識の悪意」の裏返しに過ぎない南心と厳格さに対して、少女(杉浦 幸)は他の人格を借りて復讐する。

僕ふうに言えば中流以後、松本健一ふうに言えば1964年以後、つまり高度成長経済と共に「進化(深化)」した管理状況の中で、この怒り狂う少女の分身の吊り上がった目は、僕にとても魅力的で美しい。人には他の権威によっては曲げられない潜在する意志があって、時に有効で可能な悪徳を行使する。この潜在するカタストロフィーへの希求が、体制によってまとめられた時、戦争をも手段として裁可するであろう。

鶴見俊輔の言う、現在の争点は国家神道 対 民間神道である、の含む意味はそこまで拡がりうるように思った。

他に、内田善美の「星の時計のLiddell」1・2、あすか連載の高口里純「花のあすか組!」などが面白かった。

中矢 誠

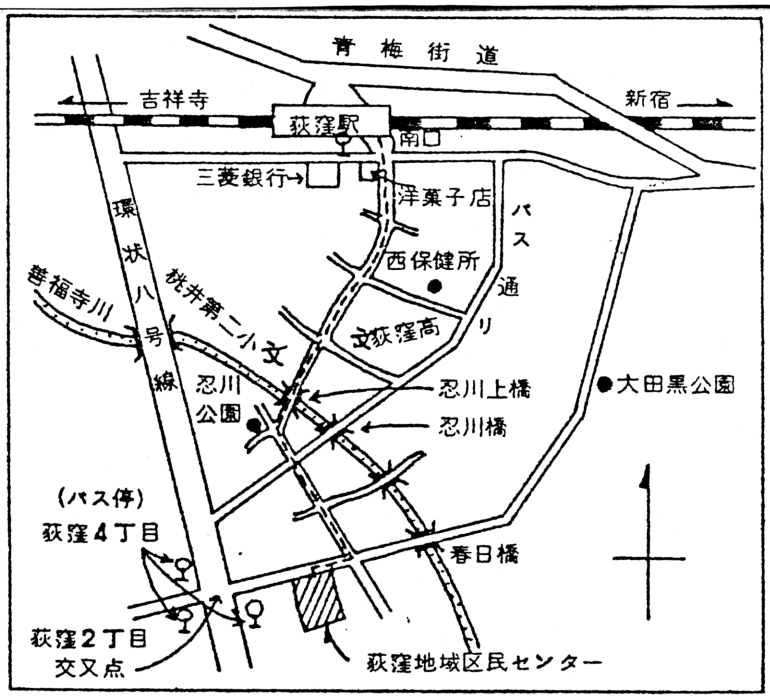
★《公民館運動　10月・東京杉並場所》を、次の要領で開催します。会場予約の関係で、開催日が迫ってからの通知になってしまい恐縮ですが、参加希望者は急いで☎でご連絡ください（連絡先：☎03-310-5842 藤本和男）。

◎日時：10月5日(日)　pm 12:30～4:30

◎場所：杉並区立荻窪地域区民センター　地階　音楽室

☎３９８－９１２５（国電荻窪駅南口下車徒歩１０分）

◎参加費：５００円



駐車は出来ません

交　通

・荻窪駅から
徒歩約10分

・荻窪駅南口から
関東バス①④番
荻窪4丁目下車徒歩約1分

・高井戸駅から
関東バス荻窪行
荻窪4丁目下車

「建設」は時として再び「破壊」である。ことはしばしば破壊的である。僕はいつだって「知っていたい」と思っていたが…。議論は馬鹿げていると思うことが度々あるのは、多くの場合議論することのラジカルなイメージが彼の自意識と誕生させているに過ぎないからだ。頭の中での議論に関心が無いのは、いつだって話すべきことは真剣に話したいことの表れである。酒はブランデーより下等で、真の革命家は酒は飲まない。反思想は反体制やその他反社会とは異ったレベルで崩壊に存在している。プロレタリアンプロであることに大いに意味はない。創造的失業？なつかしい。　8.16反日キャバレー昔8mm映画に出演したことがあって、その時の連中が来ていて驚く。友部正人も観にきたらしい。今回友部は浮いていたように映ったが、その実浮いていたのは我々である。反思想からかい離れることもが出来ず現代化したようなコンサートであった。市民運動（には実体がある）とも政治運動ともつかぬ曖昧な群れがそこに在った。別に悪いことではないが、トークは最初から東アジア、云々とヌキにして展開した粉川＋荒井組が実に一番は状況に展開したので収穫は多かった。恐らく詩が（？）出演しても成立しただろう。西村氏のドラムに注目し、che-Shiaの変化ぶりに月と奉れ、解体創造団の長谷川君のドラムに感動した。他に歴史、みらんのデュオは全体的に温度たがその時間は長しかった。A-MUSIKは竹田氏不在が吉に現れ、欠落が聚こえた。高円寺の中古銀座でAirway/live at laceを入手。なぜこんなレコードがここにあるかは「いったい誰が売ったのかを探る方が易い。ドラムの音がはっきりしているせいか想像していたより聴き易い。ところで「ライト・バルブ」はどうなったのでしょう？　8.21ゲリ氏宅で録音。ギターの下手さを思い知る。うらはSに4thとはいえ、ミュージシャンのような作業がうれしずかし（笑）ミヒャエル・ワロンの奥以上に地が出てしまった。8.23岐阜へ帰省ではなく旅行に出る。電車内も含めて光が多かった。サングラスを買う。以前バイトで群馬へ集金旅行に行ったのと同じ感覚がした。

★ 9月15日(日・祝)

☆ 音なしい人たち・よ　pm 1:30～5:00 ¥500
上目黒住区センター　音楽室（祐天寺☎793-1102）
㊐ いむたこおず・向井千恵・荒井真一・谷川まり・他

☆ 音なしい人たち・よる　pm 9:00～11:00
ラジオ・ホームラン　下北沢ロイヤルハイツ303 ☎795-6924
76MHz(?)

（おそろしい内面性のひと、）こと て部のコーナー

・한우리 山谷公演　自らの屈託を「キムチ臭い朝鮮人」と笑いながら演じとばす屈託のなさが、時代に即したテーマ性を教条的には感じなくみせる原動力なのね。その大きさに感服。。

・孔王振十四物散調　はじめてシードホールへゆく。山谷の映画のことを話してた観客がいたが、それが場違いに思えるほどスピッとした雰囲気。（そう思う私は何なのでしょう）帰り道に観客が「健全な者達が身障者のふりを見て楽しむみんて差別的で許せないと憤っていたが、そういう発想こそ差別的ではな？

・小杉武久＋川仁宏（以下、於桧技戯）小杉さんが音を出す前の数分が、どう言うのは差別的のなく妙だった。踊りというにはその枠組から逸脱している（それ以に「踊り」を越えている）その場の行為を発見してゆくスリリングな一瞬一瞬を観客も共に体験できた。それでいて緊張感をいられることもなく、即興の醍醐味を堪能した。・石井満隆を初めて体験する。その場その瞬間の状況を感知把握し観客を巻き込んでゆく瞬発的構成力、スケールの大きさに驚嘆。川仁さんと肩を組んでむこうの山に巨大に写っている自分達の影を指さす所なんかは萩白画の「寒い拾得月指の呼吸」などを連想。空高く上っている風船を吹矢（？）か銃にて見事に射とめると中から風船が出てくるシーンが山場。終った後「踊りは楽しいナァー」との謀殺は

・解体社　はじまりの場所から大八車と共にずっと歩き続けて20分程の所まで観客をつれてゆく。観客は遠いので1人へり2人へり、全ての観客があきらめてしまうまで行軍し続けるのが劇の目的かとも思わせたのが面白。路上で通りがかりの車を困らせた後ラストは河に転げ込み水中にオブジェ組み立て燃やし向こうに去ってゆく…

・シアターブラン・テラ　夜中の12時に河原にいってみるとTVが10数台置かれて昔の「笑っていいとも」などを放映してる。河畔の車の中から劇音が流れ、そのうち男が車外へずり倒れてくる。某氏のセリフ回しでしゃべるのがちと興ざめだが。。

映画・ブレッソンの「抵抗」最近再作を読んだ。本の方がずっとスリリング。主人公の脱獄により多くの人が迷惑こうむったり相棒を賭殺にしたり、といった興ざめな事実をこそ映画化したらいいのに。・ロメロ「死霊のえじき」ポリシーがあるから好きだ。ゾンビらが皆チャーミング。ヒロインと黒人男との気配での恋もパセティック。・「霊幻道士」予想通り楽しめた。香港映画にありがちな抒情に溺れたシーンもなく○。・マルクス「かものスープ」全てのものをハサミで切断してゆくハーポにくらべたらケージのネクタイ切り取ったナムジュンパイクのパフォーマンスなんて。。展開の速さの凄さ。

本・「友は静かに興れ」北方謙三　あざらしく映画化されたものも面白い。（私は概して原作＞映画化と思っています）

・「うつろ舟」澁澤龍彦　なまめかしい幻想話を書けるようになったなあ…（昔はファンだった）ペダンチックが傷。

・「パーティの夜」スタンリー・エリン／推理小説というよりSFに近い最後のオチに驚愕。「映画化」したい。他には「裸体の森へ」伊藤俊治（S.シャーマンが興味深）、「癒しのトポス」立川昭二編、「狂芸人の世界」朝日文庫　など

☆チェルノブイリはロシア語で苦よもぎという意味であり、苦艾はヨハネ黙示録の中に不吉の星として登場する。A.モルビアは新作「視る男」の中でその描写を核戦争の惨状になぞらえて解釈している。曰く「大なる星、天より隕ちきたり、この星の名は、苦艾という。水の3分の1は苦艾となり（放射能汚染？）水の苦くなりしに因りて（つまり放射能）多くの人死にたり」

－（）内A.M…千種堅・毎日新聞　☆河合君の「新興宗教家が勧誘する際、分の1度位卒倒しかける」という話を聞いて石井満隆を思い出す。彼もその手を使う。急に観客の方に後ろざまに倒れかかってくるのだ。☆大谷氏には、ナチュラリストJ.ダレルの言になぞらえて「あらゆる物を客観的に見てみれば、この世の中に気持ち悪いものなどというものはない」と言っておきましょう。